

サポーターズタイムズ Supporters Times



秋葉けんやサポーターズ事務所
自由民主党宮城県衆議院比例区第一支部
〒981-3121 仙台市泉区上谷刈4-17-16
Tel 022(375)4477
Fax 022(375)0057

衆議院議員 秋葉 けんや 政策・活動レポート

購読料 年額6,000円
編集 集 (株)アクトジャパン

自殺対策について

知人が自殺で亡くなり、9年連続して自殺者数が年間3万人を超えている現状を身近に実感した。自殺が原因による救急車の出動回数は年5万件を超えているというデータはあるが、自殺未遂者の正確な統計はない。そこで厚労省の担当者に聞いてみたら、基本的に何ともいえないものの、自殺者3万人の約10倍にあたる30万人が未遂者ではないかと推測することも可能だという。まさに驚きの異常事態である。

昨年の通常国会では、自殺対策を総合的に推進するため『自殺対策基本法』を議員立法で成立させ、自殺の防止を図るとともに、自殺者の親族等に対する支援の充実を規定し、政府に対して「自殺対策の大綱」を定めることを義務付けたが、ようやく今夏に策定された。

まず、基本認識として、①自殺は追い込まれた末の死であること(原因のトップは48%が健康問題であり経済生活問題が22%と続く、直前にはうつ病などの精神疾患を発症していることが多い)、②自殺は防ぐことができること(相談・支援体制の整備はもちろんだが、自殺者の75%に精神障害が認められていることから、いかにして適切な治療に結びつけるかがポイントだ)、③自殺を考えている人はサインを発していること(うつ病の症状に気をつけることなど自殺予防の十箇条の周知)をしっかりと踏まえることが大切だと思う。

当面の重点施策として9項目(①自殺の実態解明、②予防や啓発事業の徹底、③中心的役割を果たす人材の養成、④心の健康づくりの推進、⑤適切な精神科医療を受けられるようにする、⑥社会的な取り組みの拡充、⑦自殺未遂者の再度の自殺防止、⑧遺族への支援、⑨民間団体との連携強化)を掲げ、具体的に46の施策を取りまとめている。さらに、平成28年までに、自殺率を20%以上減少させるという数値目標も掲げている。

どれも重要な施策だが、私は特に、うつ病などの精神病対策の充実と遺族へのフォローアップの充実の2つが急務だと思う。自殺者の大半に精神疾患が認められることから、うつ病などの受診率を向上させるなど、適切に精神科医療を受け易い体制を構築することが、最も実効性の高い施策だと考えるので、適宜その進捗状況を把握していきたい。精神病というわが国ではまだまだ偏見も根強いが、国民の理解が進むように一層啓発にも力を入れていきたい。



わかりやすい身近な政治を実現するため、国会議員になってからも、毎週月曜日早朝2時間の街頭演説を続けています。

総務大臣政務官
衆議院議員

秋葉 賢也



国民生活の安心を実現します！

改正被災者生活再建支援法が成立！

被災者等のための被災者生活再建支援金支給制度については、これまで使い勝手が悪いとの声が被災者の皆さんから上がりました。この問題に関する最大の課題は、被災住宅の再建や補修を支援対象とすることができるとは、ありませんでした。

当初、与党・民主で内容の異なる改正案が提出されていましたが、被災者支援のためには早期成立が必要であるという点で認識の一致がみられ、与党・民主党間で議論を重ねた結果、自民、公明、民主の3党共同提出による「改正被災者生活再建支援法」が衆参本会議で可決・成立しました。ポイントは、右表の通りです。



被災者生活再建支援法		現行法と改正後	
		現行法	改正法
対象世帯支給限度額	全壊 最大300万円 (生活関係経費 最大100万円) (居住関係経費 最大200万円) 大規模半壊 最大100万円 (居住関係経費 最大100万円) 半壊 支給なし	①と②を合計 ①全壊 100万円 大規模半壊 50万円 ②住宅購入世帯 200万円 住宅補修世帯 100万円 住宅賃借世帯 50万円 ☆全壊で住宅購入世帯は300万円半壊 支給なし	
対象経費	家財購入費、引越し代、住宅解体撤去費ローン利子等	使途制限なし	
支給要件	年収500万円以下(世帯主が45歳以上の世帯については700万円以下。世帯主が60歳以上の世帯又は要援世帯については800万円以下)	年収、年齢要件を撤廃	
適用		能登半島、新潟中越地震など2007年度に発生した特定4災害については、遡及適用を認める	

国民の皆さんの必要や実情に応じたきめ細やかな支援体制を議員立法で実現します！

農業再生へ！ ～コメ緊急対策まとまる～

総務大臣政務官自民党は、国際ルールに準拠した関税措置や備蓄米制度等を活用した総合政策によって、売上げでコストを吸収できる「産業としての農業」をめざす米政策を提言。10月26日には、次のような「コメ緊急対策」をまとめました。

☆コメ価格対策を緊急実施

- ◎政府は34万トンを用意米として年内に買い入れ、販売は凍結する。
- ◎全農等は、主食用10万トンを超す非主食用（飼料）として処理し、これに国費を助成する。
- ◎全農の仮渡金は、1万2千円（60キロ）を基本とする。



☆生産調整へ行政関与

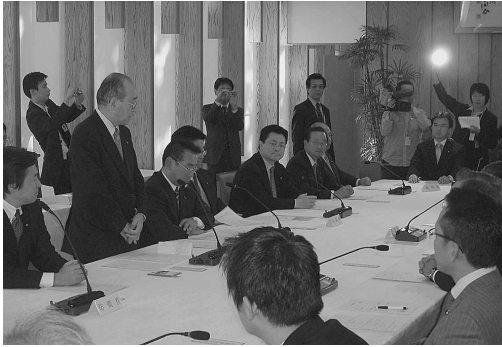
- ◎農協の自主的な取組みに加え、国・都道府県・市町村も責任をもって関与する。
- ◎産地づくり交付金のような、生産調整協力者に対するメリットを大幅に引き上げる。
- ◎非協力者・未達成地域のペナルティも検討。

☆コメ価格対策を緊急実施

- ◎品目横断的経営対策における面積要件は、地域の実態に即したものとなるように対応する。知事特認を市町村特認とする。
- ◎小麦やてん菜の単収向上や生産量が增大した地域に対する万全対策を講ずる。
- ◎小規模、高齢農家がより参加しやすくなる集落営農の特例措置を導入する。

日本人の主食「コメ」の安定的な生産の確保が、わが国の食料政策の基本です。農家の皆さんの声を反映した政策実現のために、全力で行動致します！

初の政務官会議に出席！



官邸2階の小ホールで、大臣政務官会議が開催され、出席して参りました。今会議では、今後の会議運営等について政務官全体での話し合いが持たれ、今後、毎月第2、第4火曜日に開催することについても意見の一致がみられました。他の担当大臣政務官と協力しながら、国政の重要課題解決に向け、全力で取組んで参ります。

(首相官邸2F小ホールにて)

国会議事堂見学、総務省見学を行いました！

第4回目となる国会見学ツアーが、11月13日に行われました。当日は、国会事務所→国会議事堂→自民党本部→総務省→懇親会と、盛り沢山のスケジュールでした。お天気にも恵まれ、ご出席いただいた皆様に、大変楽しんで頂ける充実したツアーとなりました。



総務大臣室にて、増田寛也総務大臣と。



見学を終えた後、国会議事堂前にて記念撮影。

76万年前に作られた氷を手にと！～国立極地観測所の視察にて～

板橋区にある国立極地研究所を視察して参りました。同研究所の藤井所長をはじめスタッフの皆さんから、同研究所が行っている極地に関する科学の総合研究や極地観察について詳細な説明を受けました。



76万年前につくられた氷
(地下2000メートルから発掘したそうです)



南極の昭和基地で働いているスタッフの皆さんと
インターネット衛生回線を通じて懇談しました。

ハガキや切手を、是非、カンパ下さい！

お知らせコーナー

総務大臣政務官就任記念 ～ サポートーズフォーラムのご案内 ～

昨年8月の第二次安倍内閣での総務大臣政務官への就任、そして9月の福田内閣における再任決定を受け、来たる3月に、「総務大臣政務官就任記念～サポートーズフォーラム～」を開催致します。年に一度の開催ですので、是非ご参加下さい！

日時 平成20年3月17日(月) 午後6時スタート！
会場 仙台エクセルホテル東急 (TEL 022-262-3988)
会費 10,000円

～ 第1回仙台のDNA街頭演説 ～

仙台選出の中野正志経済産業副大臣（N）、土井享衆議院議員（D）、秋葉賢也総務大臣政務官（A）3名の衆議院議員による街頭演説会が開催されます。

日時 平成19年12月16日(日) 午後1時30分～2時30分
場所 仙台フォーラス前

お問い合わせは、秋葉けんや仙台事務所
022-375-4477 まで！

秋葉けんやと語る会 ～ 国政報告会 ～

(泉区)

12月15日(土) 19時スタート
鶴が丘コミュニティセンター
(仙台市泉区鶴が丘1-37-1)

(若林区)

12月16日(日) 17時スタート
荒町市民センター
(仙台市若林区荒町97-1)

(宮城野区)

12月17日(月) 19時スタート
中野コミュニティセンター
(仙台市宮城野区中野字西原74-2)

☆お近くの会場へお気軽にお越し下さい。

「アイアイ」が仙台市立 八木山動物園に！

昨年のアフリカ7カ国歴訪以来、秋葉代議士は、マダガスカルと日本との友好関係強化のために、力を注いでまいりました。その一つとしてマダガスカル固有種の猿・アイアイのチンパサザ動物園から仙台市立八木山動物園への譲渡が、正式に決定しました。

政務官としての公務があり、友好協定調印に立ち会うことができず残念でしたが、八木山動物園への「アイアイ」の譲り受けが、正式に決定し、秋葉代議士も大変喜んでおります。今後とも、議員外交を通じて、他国との友好関係の強化・促進に取り組んで参ります！



いじめ件数が 6倍(12万件)に！

文部科学省は、2006年度、全国の小中高校が把握した「いじめ件数」が約12万5000件（前年度の6倍）に上ることを公表しました。文科省が、①「いじめ」の定義を、これまでの「一方的、継続的に攻撃され、深刻な苦痛を受けたケース」という客観的定義から、「いじめを受けた子どもが感じたケース」という主観的要素を重視した定義に変更したことや、②また調査対象を、これまでの「公立校」のみから、「国立、私立を含む全ての学校」に拡大したこと等が、今回のいじめ件数急増に直接つながったと考えられます。しかし、この12万5000件という数は、前年度まで見過ごされてきた「いじめ」の実数をより明るみに出したものであり、現在、多くの子どもたちが、いじめによるつらい思いを経験しているという事実を、重大な社会問題として捉えなくてはなりません。いじめを早期に発見し適切で迅速な対応をとれる教育体制を早期に確立します。

秋葉 賢也 (あきば けんや) プロフィール

- 昭和37年7月3日宮城県生まれ、45才。
- 角田高校を経て、中央大学法学部卒業、東北大学大学院法学研究科博士課程前期修了。
- 財松下政経塾卒塾（第9期生 宮城県初）を経て、宮城県議会議員（三期）を務める。
- 現在、総務大臣政務官、衆議院議員（二期目）。
- 著書：「地方議会における議員立法」（文芸社）、「東北の夢創造」（ぎょうせい）。
- 趣味：野球、空手などスポーツ、音楽、映画。

